

1. 第 52 回 JXTG 児童文化賞

萩尾 望都 (はぎお もと)
漫画家

株式会社小学館 フラワーズ編集部
〒101-8001 東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
Tel. 03-3230-5484



写真提供『美しいキモノ』©宮脇 進

◆ 贈賞理由 ◆

1970 年代に、『ポーの一族』、『トーマの心臓』、『11 人いる!』を皮切りに少女漫画の世界を、少年たちの未分化で妖しく、美しくはかない世界の交流へと変身させ、児童文化に新しい風を吹き込んだ。そのみずみずしい感性は、『ウは宇宙船のウ』や『百億の昼と千億の夜』などの SF、『イグアナの娘』、『残酷な神が支配する』などのサイコ・サスペンスへと結晶し、現代社会の諸問題を扱って人々に衝撃を与えた。時空間を自在に超える視野と、スケールの大きい世界の中で人間存在を見つめる鋭い眼を持ち続け、現代社会に新しい提案を発し続けている。東日本大震災の後は、原発事故を扱った『なのはな』などで現代を問い続けている。児童文化の世界にとどまらない多彩な内容の作品で、漫画を、文学を感じさせる高みへ引き上げた多大な功績は高く評価される。
(児童文化賞 選考委員会)

◆ プロフィール ◆

福岡県大牟田市出身。高校 2 年生の時に手塚治虫『新撰組』に強く感銘を受け、漫画家を志し、1969 年に『ルルとミミ』が『なかよし』夏休み増刊号に掲載されデビューした。『ポーの一族』は、「永遠にこどもであるこどもをかきたい」との発想から、石ノ森章太郎の『きりとばらとほしと』の吸血鬼の設定の一部をヒントに構想を思いつき、代表作となった。1985 年頃から舞台演劇やバレエへの関心が高まり、『半神』を野田秀樹と共作で脚本を手がけ舞台化、『フラワー・フェスティバル』、『青い鳥』、『海賊と姫君』などのバレエ作品を描いた。2016 年には連載終了から 40 年ぶりに『ポーの一族』の新作を発表している。日本 SF 作家クラブ、日本漫画家協会に所属。日本 SF 大賞、手塚治虫文化賞などの選考委員を務めた。2011 年に女子美術大学芸術学部アート・デザイン表現学科メディア表現領域客員教授に就任。

◆ 主な受賞歴 ◆

- 1976 年 第 21 回小学館漫画賞
- 1997 年 第 1 回手塚治虫文化賞漫画優秀賞
- 2006 年 第 27 回日本 SF 大賞
- 2010 年 アメリカ・サンディエゴ・コミコン・インターナショナル・インクポット賞
- 2011 年 日本漫画家協会賞第 40 回文部科学大臣賞
- 2012 年 紫綬褒章
- 2016 年 朝日賞

2. 第47回 JXTG音楽賞 邦楽部門

豊竹 呂太夫（とよたけ ろだゆう）
文楽義太夫節太夫

公益財団法人 文楽協会
〒542-0073 大阪市中央区日本橋1-12-10
Tel. 06-6211-1350 Fax 06-6211-3609



©出上実

◆ 贈賞理由 ◆

入門から50年を迎えた本年4月、祖父・豊竹若太夫ゆかりの名跡を襲名した豊竹呂太夫氏は、前名の英太夫時代から、てらいのない情味あふれる語り口で人々を魅了してきた。新作文楽や、舞踏・ジャズ・現代詩などとのコラボレーションなどの現代的な活動を行う中でも、竹本春子太夫・竹本越路太夫らの先人たちから薫陶を受けた呂太夫氏のどこか古風な持ち味は変わることなく、21世紀にあって義太夫節がなお多彩な伝承を保持していく上でかけがえのない人材となっている。人形浄瑠璃文楽がもつ豊饒な物語世界を現代社会に向けて表現し発信する核となる存在として、今後のさらなる充実と幅広い活躍が強く期待される。

（音楽賞邦楽部門 選考委員会）

◆ プロフィール ◆

大阪府岸和田市生まれ。東京都立小石川高等学校卒業後、1967年三代竹本春子太夫に入門し、祖父十世豊竹若太夫（人間国宝）の幼名の豊竹英太夫を名乗る。1968年大阪毎日ホールで初舞台。1969年春子太夫の逝去により、四代竹本越路太夫（人間国宝）の門下となる。2004年2月パリで開かれた文楽の世界無形遺産認定記念公演に出演。その他南北アメリカ・ヨーロッパ・ロシア・韓国など海外公演に参加。2017年4月大阪・国立文楽劇場において、六代豊竹呂太夫を襲名し、「菅原伝授手習鑑・寺子屋の段」で披露。「ゴスペル・イン・文楽」に代表される新作にも取り組み、近年では日舞・能・落語・クラシック音楽・現代詩・韓国のパンソリなどと共演。伝統を守りつつ新しい試みに挑戦している。多くの素人弟子を持ち、年1回の発表会には40人余りが参加。2017年3月「六代豊竹呂太夫・五感のかなたへ」（共著・創元社）を出版。

◆ 主な受賞歴 ◆

1971年 国立劇場奨励賞
1978年 文楽協会賞
1994年 国立劇場文楽賞文楽奨励賞
2003年 国立劇場文楽賞文楽優秀賞

3. 第 47 回 JXTG音楽賞 洋楽部門本賞

モルゴア・クアルテット 弦楽四重奏

ミリオン コンサート協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-21-10

グランスイート虎ノ門 702

Tel. 03-3501-5638(代表)/ Fax 03-3501-5620



©Norikatsu Aida

◆ 贈賞理由 ◆

1992年ショスタコーヴィチが残した全15曲の弦楽四重奏曲を演奏しようと結成された、今や我が国を代表するクアルテットの名門、それがモルゴア・クアルテットである。1993年6月に演奏活動をスタートさせたが、2001年には完奏している。以来、これまでにショスタコーヴィチの連続演奏会を4回にわたって行うなど、文字通り他に比すべきものない実績を挙げてきた。勿論、この他にもベートーヴェン、バルトーク、さらにハイドン、そして世紀末のドイツ、オーストリア作品にも取り組み大きな成果を上げてきた。さらに、プログレッシヴ・ロック・アルバム「21世紀の精神正常者たち」(2011)「原子心母の危機」(2014)をリリース、2017年には、EL&Pのキース・エマーソンとグレッグ・レイクに捧げた「トリビュートロジー」を発表するなど、ボーダーレスな弦楽四重奏団として独自の存在感をアピールしている。これまでの演奏活動、ことに弦楽四重奏の枠を超えた演奏活動を高く評価するとともに、今後のますますの活躍を祈念して本賞を贈る。

(音楽賞洋楽部門 選考委員会)

◆ プロフィール ◆

モルゴア・クアルテットは、ショスタコーヴィチの残した15曲の弦楽四重奏曲を演奏するため、1992年秋に結成され、今年結成25周年を迎える弦楽四重奏団。2001年1月の第14回定期演奏会で、ショスタコーヴィチの残した弦楽四重奏曲全15曲を1回目の完奏。同年4月、第2ヴァイオリンを青木高志から戸澤哲夫に交代。2008年11月には東京フィルハーモニー交響楽団にマルティヌー作曲「弦楽四重奏と管弦楽のための協奏曲」のソリストとして招聘され、高いクオリティを評価された。古典から現代音楽、プログレッシヴ・ロックまで、ボーダーレスな弦楽四重奏団としても高い評価を受けており、斬新なプログラムと曲の核心に迫る演奏は常に話題と熱狂を呼んでいる。「モルゴア」はエスペラント語(morgaŭa=明日の)に原意を持つ。

メンバー

荒井英治(あらい えいじ) 第1ヴァイオリン：日本センチュリー交響楽団首席客演コンサートマスター
戸澤哲夫(とざわ てつお) 第2ヴァイオリン：東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団コンサートマスター
小野富士(おの ひさし) ヴィオラ：NHK交響楽団ヴィオラ奏者
藤森亮一(ふじもり りょういち) チェロ：NHK交響楽団首席チェロ奏者

◆ 主な受賞歴 ◆

1998年 第10回村松賞
2011年 2010年度アリオン賞
2016年 第14回佐川吉男音楽賞奨励賞

4. 第 47 回 JXTG音楽賞 洋楽部門奨励賞

中村 恵理 (なかむら えり)
ソプラノ

株式会社 AMATI
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-14-5
アークヒルズエグゼクティブタワーS201
Tel: 03-3560-3007/ Fax: 03-3560-3008
<http://amati-tokyo.com/>



©Chris Gloag

◆ 贈賞理由 ◆

若手ソプラノ歌手のトップを走る有力な一人として、内外で優れた実績を重ねている。新国立劇場オペラ研修所修了後すぐに新国立劇場《イドメネオ》のイーリア役などで注目され、オランダとイギリスでの研鑽を経てバイエルン国立歌劇場専属歌手(2010～16)として活躍。ウィーン国立歌劇場他にも客演。プロのオペラ歌手としての厳しい修練の年月を経て、今や安定した美しい声とテクニック、彫りの深い表現力を獲得している。西洋オペラの通常の演目はもちろん、現代作品や日本歌曲、女性作曲家の作品への鋭敏な切り込みなど、新しいレパートリーへの挑戦もめざましい。今後は一層じっくりと自身の表現世界を確立していくことを期待したい。
(音楽賞洋楽部門 選考委員会)

◆ プロフィール ◆

大阪音楽大学、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所を経て、2008年 英国コヴェントガーデン王立歌劇場にデビュー。翌年、同劇場の「カプレーティ家とモンテッキ家」にネトレプコの代役として出演し、一躍脚光を浴びる。そののち、カーディフ国際声楽コンクールにて、歌唱賞・オーケストラ賞の両部門で本選進出。2010～2016年、バイエルン国立歌劇場のソリストとして専属契約。『フィガロの結婚』スザンナ役でデビュー後、ケント・ナガノ、キリル・ペトレンコ、大野和士らの指揮のもと、『魔笛』『ホフマン物語』『ヘンゼルとグレーテル』等に主要キャストとして出演。その他、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザルツブルグ州立歌劇場など客演多数。2016年11月には『チェネレントラ』でウィーン国立歌劇場にデビューするなど活躍の場を広げている。2017年は新国立歌劇場および兵庫県立芸術文化センター『フィガロの結婚』をはじめ、各地でのリサイタルが予定されている。大阪音楽大学客員准教授。

◆ 主な受賞歴 ◆

2013年 2012年度アリオン賞
2016年 2015年度(第66回) 芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞